

光陽の里四季だより

10月26日、収穫祭

晴天の中、にぎやかに収穫祭が行われました。

子供達の笑顔に癒される時間となりました。ありがとうございました。お陰様で来客数は多く、ビンゴゲームまで多くの方が残って楽しんで頂きました。



農業機械の展示コーナーも

収穫祭収支報告をします。

収入 寄付(金谷、松下様より)

2,100円

出展者より売上金の5%

計	7,040円
支出	9,140円
ビンゴゲーム景品代	8,250円
カード代	216円
クーポン券払い戻し	57,000円
計	65,466円

- 1 支払い超過分56,326円は例通、楽農会会計より支出した。ありがとうございました。11月の役員会で下記の規約を加えました。
- 2 楽農会の行事には積極的に参加すること。
- 3 楽農会で行う草刈りはできれば参加すること。都合の悪い場合担当責任者に申し出、事前に担当場所の草刈りを行うこと
- 4 水道代は全員で負担しています。水の出しっ放し、及び日々の管理は責任を持って行うこと。
- 5 借地の境界線まで耕作しないこと。少なくとも50cm以上(通路として使用)のスペースを取ること。

次年の土地契約書を送付しました。一年間いろいろとありがとうございました。

ございました。まだ空きの土地はありますので、仲間を誘って下さい。



今年の焼き芋は最高、高評判に来年への意欲を



あどけない子供の笑顔が癒やしの元

「倉馬の里」10周年記念祭に思う

僕達の活動記録をビデオで撮影しようとして、カメラマンに初

めて会った時、彼らに熱意が見られなかった。「どうしたんです」と尋ねる僕に「彼らの農業する姿には迫力がない」と鋭く本質を見抜いていた彼に「何言ってるんですか。僕達の農業する姿に迫力なんてある訳がない。僕達の撮影して欲しいのは使命感に燃えて、輝く笑顔で仕事する姿ですよ」と書いたのは「みんなでやろう小さい農業」の本であるが、近頃、僕達から笑顔が消えているような気がする。歯を食いしばって、苦虫をかみつぶしたような顔して、絶望と戦いながらの農作業、毎年、田植えをして、雑草と格闘しながら、「もうあきらめたら…」の声に力なく首を振っている姿。あの笑顔、津野先生が指摘したカメラマンが探し求めて来てくれて、納得したあの輝くばかりの使命感に燃えた崇高な笑顔。

里山倶楽部の活動の中にもう一度、あの笑顔を取り戻せそうな希望を持つのは僕だけなのか。10周年を一つの節目として、もう一踏ん張り。

(松井 記)